



上末っ子

令和元年8月30日

9月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い 支え合い 一人ひとりが輝く上末っ子 【学び合い】【共生】【自立】 ～

居心地のよい学校

校長 矢島 孝幸

夏休みの終わりが近づくとつれ過ぎしやすい日々となってきました。セミの鳴き声からも秋が徐々に近づいているのを感じる今日この頃です。38日間の夏休みを終え、子どもたちが元気に学校へ登校してまいりました。子どもたちの声が響き学校に活気が戻ってきました。初日の朝会で、夏休みに私自身が感じた素晴らしい自然の景色や実際に出会った野生動物たちの画像を子どもたちに紹介しました。長期の休みでしか得られない大切な宝を子どもたちと共有させていただきました。最後にこれから学校生活で感じる自分の宝を校長室の前にある『かみすえ宝箱』と一緒に共有させてほしいと話をしました。これからどんな手紙が届くかわくわくします。上末っ子一人一人の宝が抱えられないほどある、そんな学校になるようにこれからも努力していきたいと思えます。



先日、鶴見区「横浜子ども会議」が開催されました。本校からも人権委員長である六年生の村松 美紅さんが出席しました。『だれにとっても居心地のよい学校づくり』をテーマに鶴見区の小中学校の代表者（アドバイザーとして横浜サイエンスフロンティア高等学校・東高等学校代表も出席）が自分たちの考えを活発に発表しました。末吉中ブロックは、「よいところをさがす」「全校での交流を大切にす」等の考えを発信しました。全体を通して、「交流」「あいさつ」「思考転換（プラス的思考）」「かかわり」が鶴見区全体としてのキーワードと感じました。鶴見区は外国につながる多くの方が在住しています。同じ学校で生活している外国につながる仲間と言葉の壁を越えた交流を大切にしようと考えている発表もたくさんありました。本校も児童会と人権委員会が中心となって『だれにとっても居心地のよい学校』となることを期待しています。子どもたち一人一人がそのことを考えられる、そんな教育活動を大切に進めていきたいと思えます。

教職員も夏休みに学校教育目標の見直しに向けた研修を行いました。まずは、学力学習状況調査・生活意識調査や新体力テストの分析から実態を共有し、教職員の実感を通じた児童の実態を共通理解することからスタートしました。課題も見えてきましたが、「素直」「何かに取り組む前向きな姿」等、よさも十分に確認できました。どのような子どもに成長してほしいか、目指す子どもの姿を明確にして今後も進めてまいります。地域・学援隊、保護者の皆様にもご理解とご協力をいただき、上末っ子のより良い成長を目指していきます。